

問題【国語】

岐阜県生まれのAさんが東京都出身のBさんに次の言葉を話したところ、Bさんは首を傾げてしまいました。なぜ、首を傾げたのか理由を答えましょう。

「昨日、20km走ったから、体がえらい」

豆知識 雑学コラム

方言「えらい」「こわい」

今日は、「方言」についてみていきましょう。日本全国で使われる「標準語」に対して、ある地域でのみ使われる言葉のことを「方言」と言います。映画「君の名は。」やドラマ「半分、青い。」では、主人公が方言で話すことで、岐阜の方言が注目されたこともありましたね。「えらい」は標準語では「偉い」という漢字の「立派である」という意味で使われ、「疲れている」という意味で使うのは岐阜県を含めた西日本の方言です。一見すると、「立派である」と「疲れている」は全く違う成り立ちをしているように思えますが、実は同じ一つの意味から派生してできたものなのです。では、掘り下げていきましょう。

そもそも「えらい」には、「立派である」と「疲れている」以外にも使う場面がありますよね。名古屋の方言の「どえらい」や、関西地方で使われる「えらいすんまへん」のような場合です。この場合の「えらい」は「普通ではない」、「すごい」という意味で使われています。実はこの「普通ではない」、「すごい」が「えらい」のもともとの意味なのです。標準語では「普通ではないぐらい良い」から「えらい」を「立派である」という意味で使うようになりました。一方で、西日本の方言では「普通でないぐらい体が重い」から「えらい」を「疲れている」という意味で使うようになりました。

ちなみに、北海道など北日本では、「疲れている」ことを「こわい」と言います。これはもともと体が固まってしまうことを「こわい」ということに起源があります。そこから、標準語では「恐ろしげで体が固まった」という意味で、北日本では「疲れて体が固くなってしまった」という意味で「こわい」という言葉を使っています。北海道の人と話すときに「こわい」と言われたら、疲れているかなど気遣ってあげましょう。

「えらい」や「こわい」のように言葉には、地域ごとに独自の意味が加わって、方言となっているものもあるんですね。

【解答】

岐阜の方言だから「えらい」を「疲れている」という意味で使うのは